

1. 学校の教育目標

仕事の本質を理解し、共有する。そこから新たなアクションにつなげる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

具体的方法

- ・「わかる」授業を行い、全員進級を目指す。
- ・すべての仕事を行うとき、誰のための何のためにするのかを考えて最適な方法を見出し、実践する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1	・学生便覧、パンフレット、ホームページに記載 ・オリエンテーション、授業など様々な機会に周知 ・本年は感染対策を十分にとり、昨年度中止となった入学式を開催することができた。また、入学式後の保護者説明会も開催し、本校の教育目標及び方針について説明することができた。 ・9月にZoomによるオンライン保護者会を開催した。 ・学生及び保護者に対して随時個別面談を行っている。 ・全校学生及び地域を巻き込む学校行事ができなかった。 ・学生への理念の周知、そのための学習の意味の理解を深めることが不十分であった。 ・従来の学校行事の意味を再検討し、新たな学校行事の検討をする。
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

(2) . 学校運営

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	・毎年、法人として事業計画を立てて、それに沿って運営している。諸規定により、意思決定機能が明確化されている ・業界とは教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会及び各業界団体への参加により、よりよい活動を目指している。 ・学校評価については、2020年度に学則記載記載した。 ・新型コロナウイルス感染拡大により今年も学校祭は開催できなかったものの、例年行ってきた地域の方による狂俳指導を対面で行うことができた。 ・教育活動の情報活動は、ホームページ、パンフレット、サンビだよりを通して行っている。 ・学校概要、前年度自己評価・学校評価を学校HPにおいて公表している。 ・実務者研修においてはITツールを用いた業務効率化を進めている。また、教務事務のDX化により、業務の効率化とペーパーレス化を進めている。 ・ITツールを用いた業務改善の進捗を早める必要がある。 ・現在検討を進めているDX化を実現し、業務の効率化とそれによる教育の充実化を図る。 ・今年度中に教務事務支援システム・スマートグラス・電子黒板・3D教材を今年度中に導入する
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	

(3) .教育活動

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④3 2 1	・教育内容、到達レベルについては学生便覧pp.6-9、およびシラバスにより明確にしている。また、学年の特性を踏まえ、授業時間の追加、補講等を実施し、到達目標レベルまで、引き上げるよう工夫している。また、見直しなどは、教職員の振り返り、学生面談のみならず学生アンケートを実施し、学生のニーズをも取り入れ実施している。また、教育課程編成会議にて説明。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④3 2 1	・リハビリセンター白鳥の利用者評価・リハビリを定期的に行い、その経験を学生への実践教育に活用することができた。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④3 2 1	・国語力に課題のある学生に対し、すべての学科において個別で評価し、その対応を行っているが、学校全体として国語力向上に向けた体制を整備できていない。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④3 2 1	・留学生の日本語教育および本校教員への助言を元中学校長で、在外日本語学校長経験者に依頼した。また、留学生への授業に他学科の教員も参加し、様々な視点から指導を行えるよう取り組んでいる。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④3 2 1	・今年度よ各学科で研究授業を行い、他教員が見学し、その後意見交換などを行っている。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④3 2 1	・授業評価については、他教員が見学する形で実施している。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④3 2 1	・介護福祉学科の留学生対応については、学外及び他学科の教員の協力も得ながら国語力向上を図っている。しかしながら作業療法・言語聴覚学科については学科単位での個別対応にとどまっており、今後は全学科体制をより推し進める必要がある。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④3 2 1	・コロナの感染を想定した教育の課題とそれに対する対応についての検討が不十分である。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④3 2 1	・個別指導を、学科ごとに行ってきたが、場合によっては指導時間が大幅に延長することもあった。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④3 2 1	・コロナ禍のために対面でのかかわりができないときの課題を整理に、感染拡大時を想定し教育計画を立てる。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④3 2 1	・個別指導を関係者のみで行うのではなく、学校全体で取り組むことで、効率的な指導を検討・実施する。その結果生み出された時間を授業準備、教材研究、研修に向ける。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④3 2 1	・各学科で研究授業を行い意見交換を行ったが、授業評価に関する明確な規定はない状態である。また、年間に各学科で1回の開催のみであった。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④3 2 1	・学生便覧p.3学則第16～18条、p.10学則施行細則第2条、第5条～18条により明確にし、成績判定会議（運営会議）にて協議の上、校長が認定する。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④3 2 1	・教員確保については、校長・総学科長を中心に学校全体として実施している。医師担当分野で確保に工夫をしている。
・職員の見学・自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・士会活動に参加をしているが、卒業生の卒業教育として、明確な位置づけを行っていない。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・各学科単位、随時行われる打ち合わせ等において、学生の特性を理解するための課題検討を随時行っている。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・各学科で検討した内容をもとに研究授業を行い、教員同士での振り返りや意見交換を行った。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・オンライン開催の研修会を中心に、様々な外部研修会に参加することができた。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・コロナ禍で実習調整に追われたことおよび多くの研修会の中止もあり、研修の参加が例年に比べ少なかった。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・実際は職員研修を実施し資質向上に努めている。ただし、教育方法論等の研修が不十分である。
・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。	④3 2 1	・授業評価に関する規定を作成し、研究授業後の評価が実施教員に適切にフィードバックされるようにする。また、研究授業の開催数を増やし、様々な教員が他教員の授業を見学し、自身の研鑽を積むことができるように努める。

(4) . 学修成果

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・就職率の向上が図られているか	④3 2 1	・就職率100%となっている。 ・OT学科の国家試験の合格率が低下した。
・資格取得率の向上が図られているか	4③2 1	・入試内容の検討を、クラス及び個人への国語基礎力向上への工夫、学生面談、保護者との連携を行い退学率の低下に取り組んでいる。 ・卒業生の状況を把握してはいる。就労、在宅分野で活躍しているものが多い。
・退学率の低減が図られているか	④3 2 1	・卒業生の活動を、学校教育へのフィードバックとして捉え、整理する必要がある。卒業生の就労状況の把握を行っているものの、完全にはできていない。 ・学生の学力以前の課題の自己認識を高めることができず、知識を深めることが不十分。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④3 2 1	・引き続き卒業生の就労状況の把握に努める。 ・学生が自分の特性と向き合う機会や体験を意図的に3年間の中に設ける。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④3 2 1	

(5) . 学生支援

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④3 2 1	・学籍簿、個人記録、健康記録を整理している。担任制を敷いているが、あくまでも窓口と考え、学生がいつでもだれにでも相談できるようにしている。 ・信頼できる不動産業者にアパート情報を提供していただいている
・学生相談に関する体制は整備されているか	④3 2 1	・入学式後の保護者懇談会、9月のオンライン開催による保護者会・個別面談を開催するなど、保護者との連携を務めている。 ・卒業生への支援体制としてはないが、相談に来ることが多く、積極的に対応している。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④3 2 1	・感染予防対策を十分に行い、7月にリハビリセンター白鳥でインターンシップを実施することができた。高校などに医療福祉職の紹介や出張講義を行っており、より多くの学生が福祉に関心を持つように工夫している。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④3 2 1	・県作業療法士会と連携し、卒業前に職能団体の活動意義について説明する機会を持ち、卒後の生涯学習への意識を高めるように工夫している。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④3 2 1	・学生に関する情報について各記録を備えているが、データ上での一元化がなされておらず、確認や共有がしにくい。 ・卒業生への支援が不十分
・学生の生活環境への支援は行われているか	4③2 1	・介護福祉士の魅力を発信する工夫をする必要がある。
・保護者と適切に連携しているか	4③2 1	・教務事務支援システムの導入を進め、学生に関する情報を全教職員が共有し、必要な時に活用することができるようにする。 ・卒業生の卒後教育について各士会と連携をさらに強化していく。
・卒業生への支援体制はあるか	4③2 1	・卒業生に必要な情報ページをホームページに作成する。 ・引き続き介護福祉士についての広報、啓発は学校が県や自治体といった行政及び地域を巻き込みながら行う。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4③2 1	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④3 2 1	

(6) . 教育環境

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4③2 1	・全館Wi-Fi整備し、学生がいつでも情報を入手し、授業でも活用できる環境を整えている。 ・教育機器（PC）の計画的な更新を行っている。しかし、接続不良で授業開始が遅れることがあった。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④3 2 1	・感染症拡大の影響で多くの実習施設が受け入れ中止となる中、法人関連施設の協力を得て実習施設を確保し、極力学内実習の割合の低下をはかった。 ・実習可能となった場合でも、コロナ禍のため対面で目標共有、学生情報の共有ができず、対応に苦慮したことがあった。 ・消火訓練では留学生が消火器使用未体験のため、実際の消火器8台を使用し消火訓練を実施した。日本での生活を送る上で大切な経験を得る機会を提供できた。
・防災に対する体制は整備されているか	4③2 1	・PC・プロジェクターの準備が遅い。 ・防災マニュアルが不十分 ・接続部の丁寧な扱いの指導、及びPC・プロジェクターの接続固定をするなど工夫をする。 ・防災マニュアルを早急に整備していく必要がある。

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	・学生募集は、誇大表現することなく適正に行っているが、教育成果を伝えきれていない。学納金は、募集要項に記載したもの以外徴収していない。学納金については全国的にみて、最も安い学校に位置している。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	・教育成果、コロナ禍での実習の取り組みなどを広く伝えていく必要がある。
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	・コロナ禍でも現場を持っていることで実習を行うことができることなど、強みを広報していく。

(8) . 財務

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1	・法人全体では財務基盤は安定しており、現在はその力を借りて運営している。 ・法人として法令に従い情報公開している。 ・学生への資料提供費用の学校負担基準が曖昧であった。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	・教員の教育活動における経費の認識が不十分で経費負担の所在が不明確であった。
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	・定員を満たしていない。
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	・教員の経費に関する意識を高めると共に、数年で、損益分岐点の学生数となるよう努力を重ねる。 ・光熱費を中心に節約に努める。エアコン使用時にはそれぞれが衣類で調整する意識を高めるよう指導する。

(9) . 法令等の遵守

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	・自己点検表で示すように法令を遵守適性に運営している。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1	・個人情報の中でも、成績管理についてはPC上で保存していない。 ・自己評価については、専修学校学校評価ガイドラインに沿って実施し、問題点の改善に努めてきた。自己点検票は学校HP上で公表を行っている。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	・成績以外の情報管理において、PCロックなど二重のパスワードで管理がで不十分である。
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	・教務事務支援システムの導入を進め、学生に関する情報管理を徹底する。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	・コロナ禍により、例年行っているバスツアー、NPO法人主催の健康教室や、自主的な子育て講座などを実施することができなかった。しかしながら白鳥地区の方から、今年度は対面で狂俳の創作を指導していただき、地域との連携をもつことができた。また、リハビリセンター白鳥において高校生対象のインターンシップを開催することができた。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1	・オンラインでできる創意工夫した地域貢献が不十分。 ・さらにオンラインでできる地域貢献していく。 ・コロナ禍で今年度も引き続き全くといっていいほど募集もなく、また積極的な参加も促すことができなかった。
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	・コロナ禍を理由に積極的なボランティア参加を促すことができなかった。 ・社会人からの学生に対して離職者等委託訓練実施事業を実施している。 ・転職を考える社会人に対してオンライン及び本校での説明会を開催した。参加者のうち二人が職業訓練生として来年度本校に入学することになった。 ・出張講義等に行っている高校の先生方（校長先生2人、学科主任・科目担当教員3人）にご来校頂き、校舎ご案内後本校教育と各高校の連携について意見交換を行った。次年度、高校生の施設での体験学習開催の計画等の案が出た。 ・揖斐川町と連携し、医療・福祉に関心を持つ地域の高校生（揖斐高校生）のためのワークショップに参画、参加した。本校からは4人の学生が参加しうち3人は司会を担当し、本校で医療・福祉を学ぶ意義を発信した。 ・職業訓練生募集についてハローワーク及び県事務所等への継続的な訪問を行ったが、訓練生の応募は昨年を下回った。 ・本校開設25周年記念誌を刊行した。地域の学校や自治体、地域で活躍する卒業生等にお配りし、本校の取り組みを伝える機会となった。 ・感染予防策をとりながらインターンシップを行っていく。 ・コロナ禍においても学生が地域の中で学び、その学びをまた地域に還元できるような方法を考えていく。

(11) . 国際交流

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れは、日本語学校在籍者が従来の3割に留まる中、介護系専門学校からの進学者の募集を推進、次年度11名となった。新たな出身校が増え、入学手続きに困難をきたした。 ・岐阜・西濃地域の日本語学校と連携を図り、日本語能力と介護職に関する適性があると判断される者について、短時間ではあるが現場見学ができた。 ・今年度末8名の留学生が卒業した。そのため、日本語と英語の卒業証書を作成した。 ・卒業生は入学時、納税の義務をはじめとする日本のルールについて無知であったが、その必要性を理解しおおよそ自分で対応できるようになった。 ・留学生に対する国家試験対策を手探りながら実施。日本語学校での成績を基にすると、獲得点数が高い学生が多かった。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの出身校からの留学生に対応できるよう手続きの見える化をすすめる必要がある。 ・国試対策について留学生の認識を早期に高め、可能な対策を適宜とる必要がある。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・手続き一覧を見やすく作ると共に英語も併記する。 ・留学生の生活支援。学習支援について、その必要な支援の内容と量を明確にし、それぞれについて達成目標と方法、期日を教職員で共有することによって着実な業務遂行に努める。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	該当せず	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の福祉学科の国家試験対策を全職員で取り組む